

## 近年の改革動向 —「学士力」を中心に—

@首都大学東京  
2008年10月2日  
川嶋 太津夫  
神戸大学

## まずお尋ねします

首都大学東京の卒業生は、

- どのような人間として育っていくのか？
- どういう知識を理解しているのか？
- 何ができるのか？

2

## 内 容

講演者(私)は、次のような内容をお話します。

1. 21世紀の社会の変化と高等教育へのインプリケーション
2. 学部教育から学士課程教育へ～教育のプログラム化～
3. アウトカム重視の教育へ
4. 高等教育に求められるアウトカムズ
5. 大学設置基準改正の意図
6. アウトカムを重視した学士課程のプログラム化
7. 教授・学習法の改善・転換
8. アセスメントの必要性・重要性
9. 今日の振り返り

3

## 本日の期待される学習成果

参加者は(皆さん)は、講演会終了後

1. 21世紀の社会の変化と高等教育への意味が分かる。
2. 学部教育から学士課程教育へ転換する背景が理解できる。
3. アウトカム重視の教育の意味・意義が分かる。
4. 高等教育に求められるアウトカムズを考えることができる。
5. 大学設置基準改正の意図が分かる。
6. アウトカムを重視した学士課程のプログラム化を設計できる。
7. 教授・学習法の改善・転換の重要性に気付く。
8. アセスメントの必要性・重要性に気付く。
9. 講演者に質問できる。

4

## 21世紀の社会の変化と 高等教育へのインプリケーション

5

## 知識基盤社会

- 「人的資本」としての高等教育  
高等教育⇒経済成長・所得向上  
「高等教育-経済」の関係  
「大卒者-労働市場」の関係
- 知識の意味の変化  
知識の獲得・所有⇒知識の活用  
“Knowledge” ⇒ “Knowledge in action”  
“Knowing that” ⇒ “Knowing how”

6

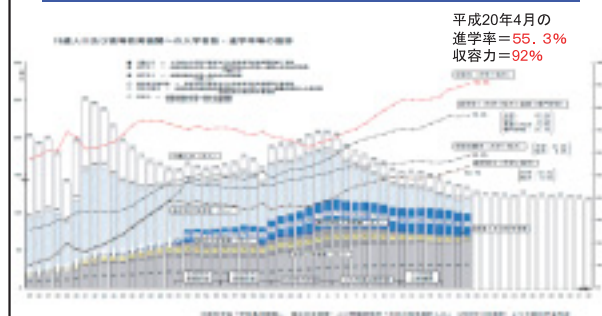
## 生涯学習社会(ポートフォリオ社会)

- 終身雇用制度の崩壊
- 多様な職種・就業パターン
- 卒後3年3割の離職
- 流動化する労働市場

↓  
知的インフラ、持続的就業力の育成  
学習のポータビリティの重要性

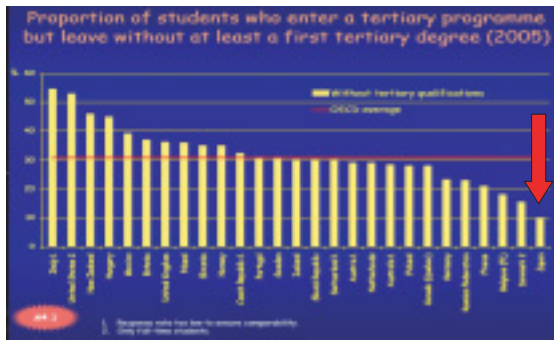
7

## ユニバーサル化・大学全入

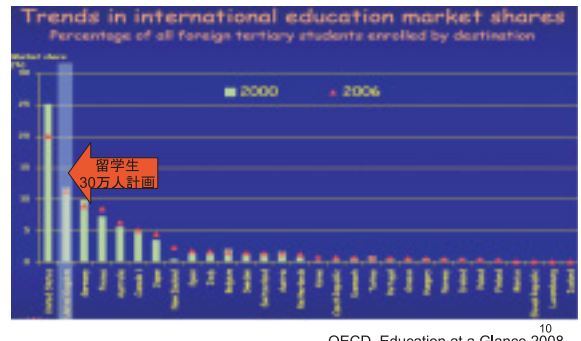


8

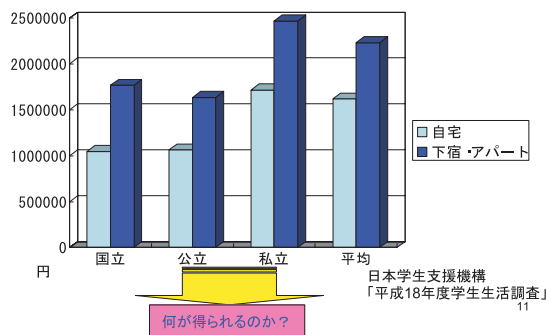
## 出口管理＝大学全卒？



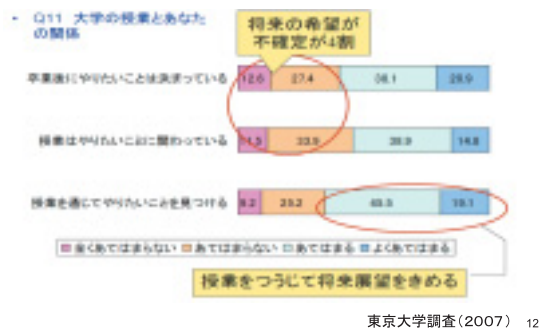
## 高等教育のグローバル化



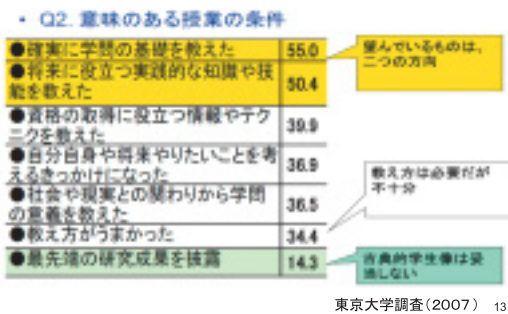
## アカウントビリティへの圧力



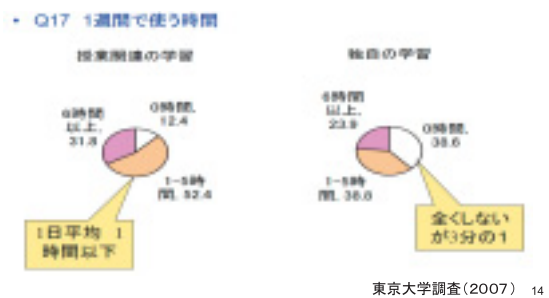
## 現代の大学生像



## 現代の大学生像



## 現代の大学生像



## 高等教育への含意

環境の変化	大学への意味
知識基盤社会	蓄積した知識を活用・応用・創造できる能力の育成
生涯学習社会・ポートフォリオ社会	知的インフラの育成、学習のポータビリティ
ユニバーサル化・大学全入	出口管理の強化、主体的学習者の育成
グローバリゼーション	国際的通用性、学習のポータビリティ
アカウントビリティ	教育の質保証、付加価値の重視

## 高等教育のパラダイム転換

以前	現在
教員	学生
教育	学習
プロセス	アウトカム
ディシプリンの教育	人材の育成
学校での学習	生涯学習

教員が内容をどれだけ教えたのか → 学生がどれだけ学んだのか  
何ができるようになったのか

## 学部教育から学士課程教育へ ～教育のプログラム化～

17

## 大学改革の経緯

- 1991年 『大学教育の改善について』  
⇒「大綱化」「学士の学位化」
- 1997年 『21世紀答申』  
⇒「課題探求能力」「学部教育の再構築(教養教育+専門基礎・基本教育)」
- 2005年 『将来像答申』  
⇒「機能分化」「学位＝知識・能力の証明」「学位を与える課程」「21世紀型市民の育成」「3つのポリシー(アドミッション/カリキュラム/ディプロマ)」

18

## 大学改革の経緯

- 2008年9月 諮問『中長期的な大学教育の在り方について』
- 1. 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について
- 2. グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について
- 3. 人口減少期における我が国の大学の全体像について

19

## 大学改革の経緯

- 2008年9月 諮問『中長期的な大学教育の在り方について』
- 1. 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育の在り方について
- 学生本位の視点に立った検討
- 「学位プログラム」を中心とする仕組の導入
- 医療系人材等の社会的要請の高い分野での人材養成
- 質保証システムの在り方(設置認可、自己点検・評価、認証評価、分野別評価)
- 学生の履修支援システム

20

## 大学改革の経緯

- 2008年9月 諮問『中長期的な大学教育の在り方について』
- 2. グローバル化の進展の中での大学教育の在り方について
- 大学の国際競争力の向上(留学生30万人計画)
- 大学教育の国際的評価への対応(OECD, AHELO)
- ①一般的技能、②工学、経済学、③背景情報(プロセス)
- アジア内での学生・教員の流動性の向上

21

## 大学改革の経緯

- 2008年9月 諮問『中長期的な大学教育の在り方について』
- 3. 人口減少期における我が国の大学の全体像について
- 人口減少期における大学の全体像(平成32年度以降18歳人口100万以下に?)
- 機能別分化と連携協力
- 全国と地域における大学の在り方

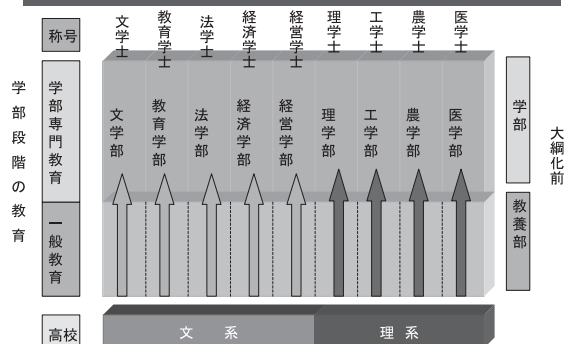
22

## なぜ「学士課程教育」なのか

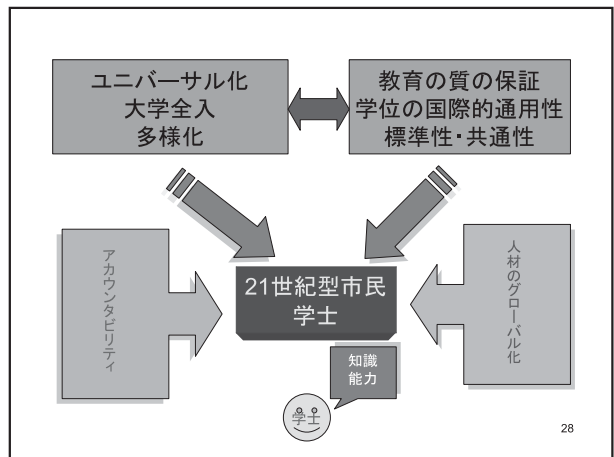
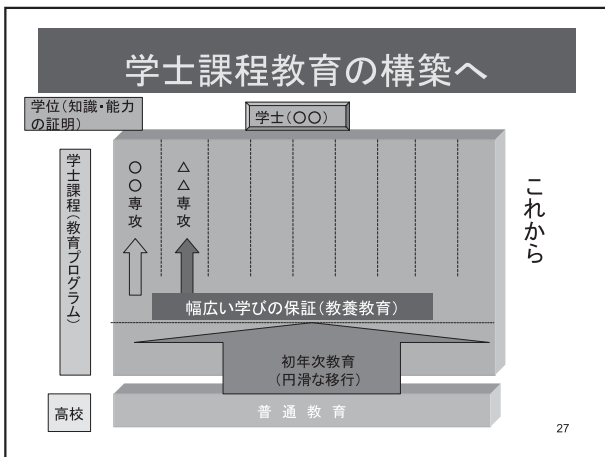
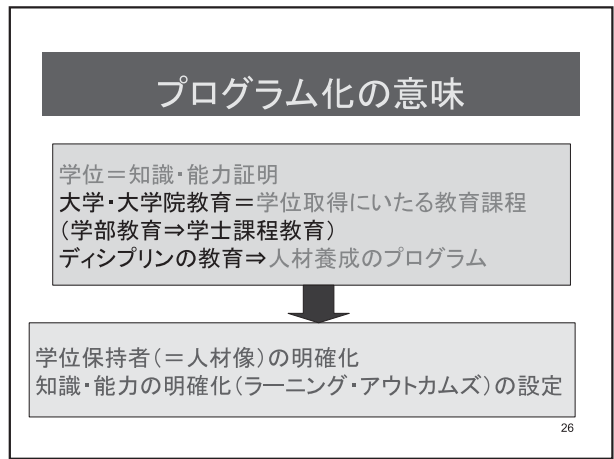
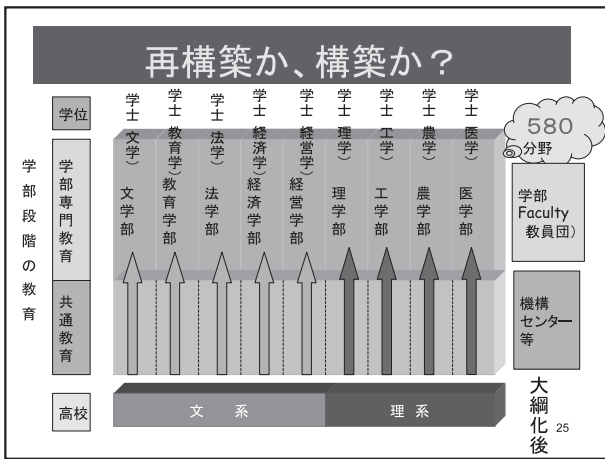
- 学士＝学位＝世界共通の「知識・能力の証明」(『将来像答申』)⇒標準性
- 組織を基盤とした教育⇒学位を授与する課程(プログラム)としての教育(『将来像答申』)
- ユニバーサル段階+大学院教育の拡大⇒学士課程教育の機能変化(『21世紀答申』)

23

## 再構築か、構築か？

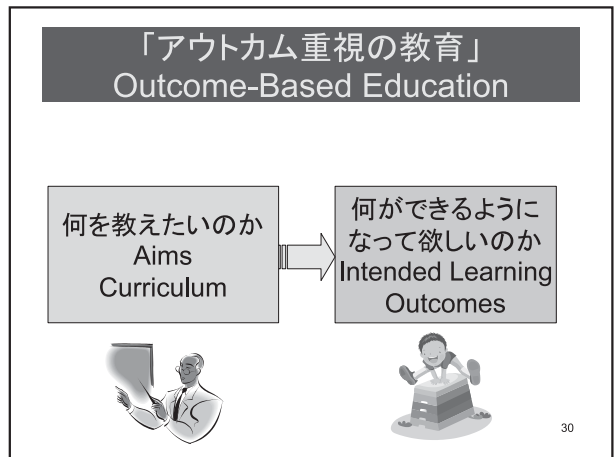


24



### アウトカム重視の教育へ

29

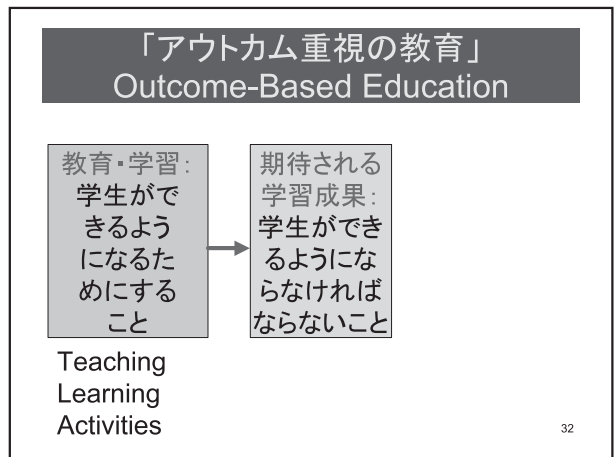


### 「アウトカム重視の教育」 Outcome-Based Education

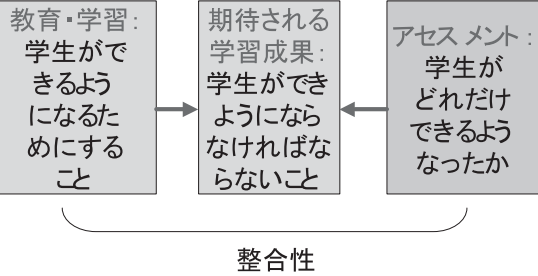
期待される  
学習成果:  
学生ができるようになる  
しなければならないこと

Intended Learning Outcomes

31



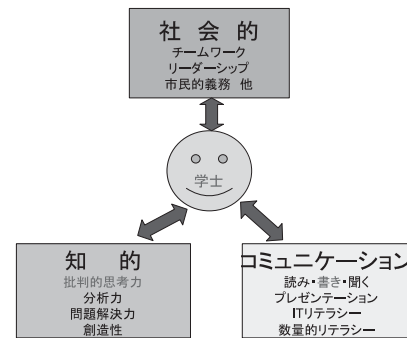
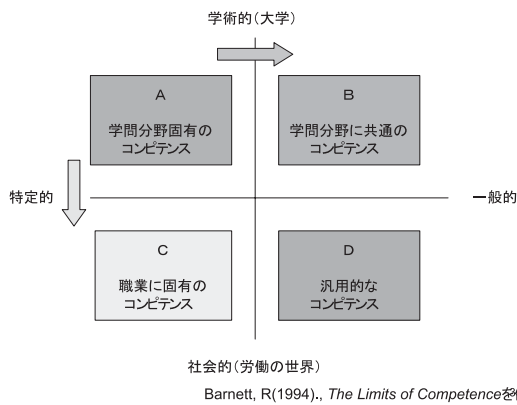
## 「アウトカム重視の教育」 Outcome-Based Education



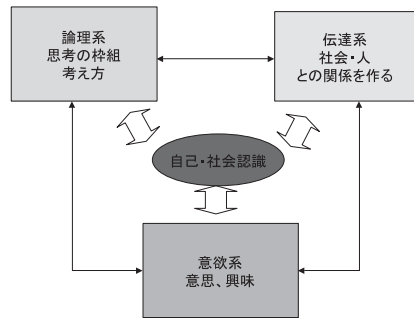
33

## 高等教育に求められるアウトカムズ

34



Milton Hake!@Bowling Green State University



金子元久(2007)『大学の教育力』

37

## 各国で求められている汎用的なコンピテンス

国名	呼称
イギリス	Core Skills, Key Skills, Common Skills
ニュージーランド	Essential Skills
オーストラリア	Key Competencies, Employability Skills, Generic Skills
カナダ	Employability Skills
アメリカ	Basic Skills, Necessary Skills, Workplace Know-how
シンガポール	Critical Enabling Skills
フランス	Transferable Skills
ドイツ	Key Qualifications
スイス	Trans-disciplinary Goals
デンマーク	Process Independent Qualifications

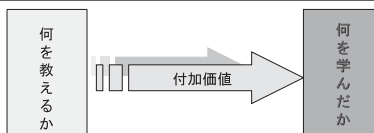
38

## 汎用的なコンピテンスの要素

種別	オーストラリア Mayer Key Competencies	英国(NCVQ) Core Skills	カナダ Employability Skills Profile	米国(SCANS) Workplace Know-how
知的コンピテンス	情報を収集し、分析し、整理する 数的スキル 問題解決力	生涯学習力 数的スキル 問題解決力	思考力 数的スキル 問題解決力、意思決定力	思考スキル(創造的 思考、判断、 問題解決) 基本スキル(読 み書き、数学、 対話)
社会的コンピテンス	他者との協働 チームワーク	他者との協働	責任感 他者との協働	チームワーク リーダーシップ 責任感
コミュニケーションコンピテンス	アイデアと情報の 伝達 技術の活用	コミュニケーション スキル 情報技術	コミュニケーション スキル 技術の活用	情報の活用 技術的システム の理解

39

## Learning Outcomes Competence Graduate Capabilities 社会人基礎力 学士力



40

## ラーニング・アウトカムズとは

- 学習者が一定期間の学習を終了した時に知り、理解し、できるようになることが期待されることについて表明されたもの。

(J. Moon, 2002)

41

## ラーニング・アウトカムズは

- 「動詞」で表現(主語は学生)
- 観察可能
- 測定可能
- 学習者にとって重要

42

## 学士力(Graduate Capabilities)

1. 知識・理解	} 21世紀の 教養
2. 応用・実践	
3. 態度・価値観	
4. 統合的・学際経験と創造的思考力	

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解  
(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解  
(1) コミュニケーション・スキル (2) 数値的スキル  
(3) 情報リテラシー (4) 論理的思考力 (5) 問題解決力  
(1) 自己管理能力 (2) チームワーク、リーダーシップ  
(3) 倫理観 (4) 市民としての社会的責任 (5) 生涯学習力

43

## 大学設置基準改正の意図

44

### • 大学設置基準第2条の2

(教育研究上の目的の明確化)

大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的を学則等に定め、公表するものとする。

(留意事項)

大学設置基準第2条の2の規定による目的の策定に当たっては、各大学のそれぞれの人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標を明確にし、これらに即して、体系的な教育課程を提供するとともに、責任ある実践のための人的、組織的体制、物的環境を整えることに資するよう留意すること。また、組織として目的を共有するため、学則、学部規則又は学科規則などの適切な形式により定めるとともに、大学のホームページ等を活用し、これを広く社会に公表するよう留意すること。

具体的なLearning Outcomesの設定

45

### • 大学設置基準第25条の2

(成績評価基準等の明示等)

大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。また、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

Assessmentの基準、方法の明確化

46

### 【大学設置基準】平成20年4月1日より施行

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第25条の3 大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(留意事項)

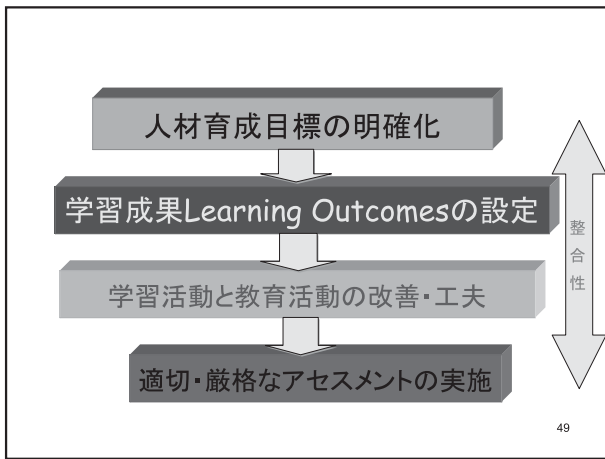
大学設置基準第25条の3の規定によるいわゆるファカルティ・ディベロップメント(FD)については、これまで努力義務であったものを義務化するものであるが、これは大学の各教員に対し義務付けるものではなく、各大学が組織的に実施することを義務付けるものであること。これを踏まえ、各大学においては、授業の内容及び方法の改善につながるような内容の伴った取組が望まれること。

FDの義務化

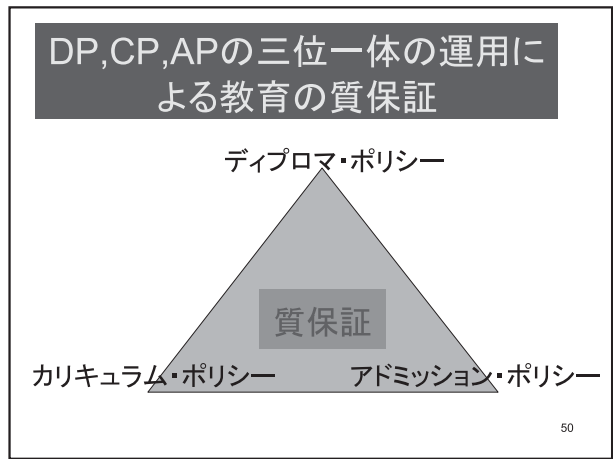
47

## アウトカムを重視した学士課程のプログラム化

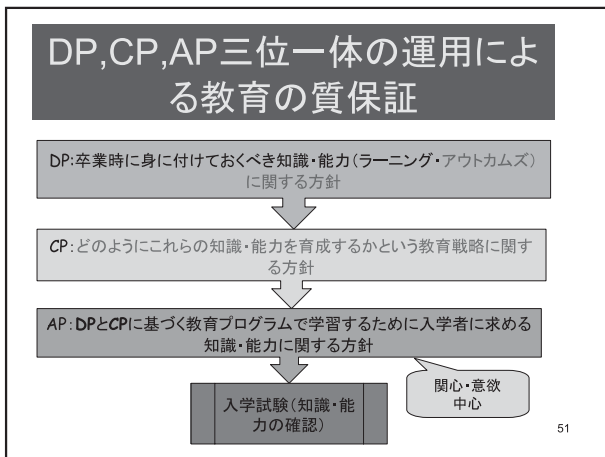
48



49



50



51

- ### ブルームのタクソミー (アウトカムのカテゴリー)
- 認知的領域 Cognitive Domain
    - 知識・理解
    - 思考・判断
  - 情意的領域 Affective Domain
    - 関心・意欲
    - 態度
  - 精神運動的領域 Psychomotor Domain

52

### カリキュラム・マップ (学生の学習マップ)

知識・能力 科目名	知識の理解	批判的思考力	チームワーク	プレゼンテーション
〇〇概論	◎	○		
**特論	◎	◎		
△△演習	◎	◎		◎
□□実験	△		◎	◎

53

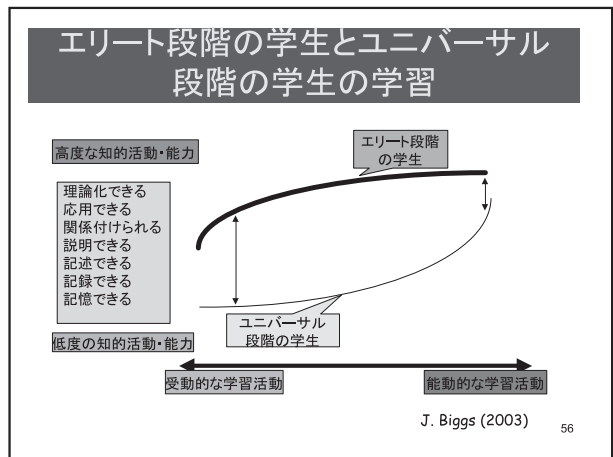
### 教授・学習法の改善・転換

(どうやってラーニング・アウトカムズを習得させるか)

54

- ### 学習と教育の関係に関する3つの仮説
1. 学習は、学生の資質によるところが大きい
  2. 学習は、教員の教え方によるところが大きい
  3. 学習は、学生の考え方、教育環境の影響を受ける学生自身の学習活動次第である
- ↑
- 構成主義的学習観

55



56

## 多様な能動的学習が必要



57

## 学習を促進する7原則(AAHE)

- 学生—教員の交流
  - 学生同士の協働(学習共同体)
  - 能動的学習Active Learning
  - 迅速なフィードバック(形成的評価)
  - 時間の有効活用・集中力
  - 高い期待
  - 個性の重視・多様な学習機会
- ※学習は「スポーツ観戦」ではない  
学生の主体的関与Involvement, Engagement

↓  
ペダゴジー改革が不可欠

58

## 中国の故事

- 聞いたことは、忘れる
- 見たことは、覚える
- やったことは、分かる

59

## Active Learningのモットー

- What I **hear**, I forget.
- What I hear and **see**, I remember a little.
- What I hear, see, and **ask questions about** or **discuss** with someone else, I begin to understand.
- What I hear, see, discuss, and **do**, I acquire knowledge and skill.
- What I **teach** to another, I master.

(Mel Silberman, *Active Learning: 101 Strategies to Teach Any Subjects.*)

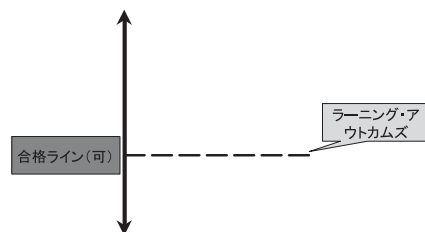
60

## アセスメントの必要性・重要性

(ラーニング・アウトカムズの習得を如何にして判断するか)

61

## ラーニング・アウトカムズと成績評価



62

## ルーブリック(評価基準)の例

Alverno College Communication Department

CRITERIA FOR EFFECTIVE SPEAKING/MEDIA

In a given speech, the student should demonstrate the following abilities to the level indicated:

1. Communicate with confidence through SPEAKING/ENGAGING/STORY

- 1.1 Speaks to an audience for a stated purpose with clear evidence of preparation and organization.
- 1.2 Communicates to an audience, being enough to suggest the speaker has internalized the information with little reliance on script or memorized text.
- 1.3 Communicates with the audience, giving the impression of both thinking and speaking spontaneously without reliance on script or memorized text.
- 1.4 Gives a confident impression of communicating with the audience without reliance on script or memorized text.

2. Analyze and evaluate through EVALUATING/ANALYZING/CRITICIZING

- 2.1 Analyzes and evaluates a situation appropriate to a specified audience, needs of the situation and sources of information.
- 2.2 Uses evidence to assess the value and purpose of what one is selling, recommending, or why?
- 2.3 Uses evidence to assess the value and focus, distinguishing between the speaker's view and others.
- 2.4 Analyzes a presentation, shows how others' views relate to her own thinking.
- 2.5 Analyzes a presentation, shows how one's own knowledge, beliefs, and attitudes relate to others' views.

63

## 水準を考慮したカリキュラム・マップ

	Econ	Econ	Eng	Math	Busi	Busi	Busi	Busi	Busi
	n	201	201	250	101	201	202	230	233
批判的思考力	I					D		P	
問題解決力				D	I		D		P
分析的思考力	I	D		I		D		P	
コミュニケーション力	I		D						P
チームワーク		I			D		P		
リーダーシップ	I		I		D			P	

I: Introductory, D: Developing, P: Proficient

64



## 明確な成績評価方法の例

Assignment	Possible Points	Percent of Grade
Preparation & Team Participation	25	17%
Midterm Exam	35	23%
Homework	15	10%
Team Case Study Analysis (draft)	15	10%
Team Case Study Presentation	15	10%
Team Case Study Analysis (final)	45	30%
Total	150	100%

California State University Long Beach

65

## 明確な成績評価方法の例

	Identify	Distinguish	Demonstrate	Team Work	Portfolio
Class Participation	X	X	X	X	
Homework	X	X	X		
Midterm	X	X	X		
Case Study Analysis	X	X	X	X	X
Case Study Presentation			X	X	X

66

## 今日の振り返り Reflection

67

## 教育の質の直接挙証 成果の可視化が不可欠

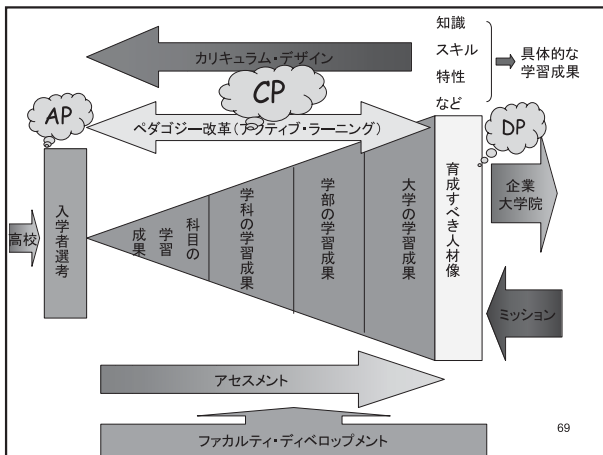
インプット	プロセス	アウトプット	アウトカムズ
学生の背景 (入学試験の成績、性別など)	大学が提供する教育プログラム&各種サービスなど	学生の成績、卒業率、就職率など	学生が身につけた知識やスキル、態度、価値観など
教員の背景 (保有学位、年齢など)	教員の教育負担、クラスサイズなど	論文数、FD活動、授業回数など	論文引用指数(インパクト)、教員の能力改善など
教育資源 (蔵書数、PC数など)	教育理念、学則、管理運営体制など	利用可能な諸資源のデータ、FDへの参加率など	学生の学習と成長、成功など

大学の潜在的な能力

教育の間接的な成果・質

教育の直接的な成果・質

68



69

## 首都大学東京の卒業生は

- どのような人間として育てていくのか？
- どういう知識を理解しているのか？
- 何ができるのか？

70

## そのような人間を

- どのようにして育成するのか？
- どのようにして確認するのか？

71

## 自己アセスメント

- 21世紀の社会の変化と高等教育への意味が分かる。
- 学部教育から学士課程教育へ転換する背景が理解できる。
- アウトカム重視の教育の意味・意義が分かる。
- 高等教育に求められるアウトカムズを考えることができる。
- 大学設置基準改正の意図が分かる。
- アウトカムを重視した学士課程のプログラム化を設計できる。
- 教授・学習法の改善・転換の重要性に気付く。
- アセスメントの必要性・重要性に気付く。
- 講演者に質問できる。

72



6つ以上できれば

祝 修了

73